

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との連携	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容、事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	扇寿苑グループホーム
（ユニット名）	扇寿苑第二グループホーム
所在地 （県・市町村名）	秋田県大館市比内町
記入者名 （管理者）	高橋良胤
記入日	平成21年10月2日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所独自の理念を作り上げ日々努力し実現に向けて取り組んでいる。</p>	<p>地域の方達と接する時間を多く作る努力をしている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営者、管理者、職員が理念を共有し少しずつ取り組んでいる。</p>	<p>理念の実現に向けて少しずつ活動している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の方にも随時連絡し、地域の方々にも理解して頂くように努めている。</p>	<p>包括と連携したり、他事業所と交流をし地域へ出向き理念を伝えている。</p>
ちい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>買い物や通院時、ドライブ等で顔見知りの方や市民の方からも声をかけてくれる。</p>	<p>出来る限り外出をし交流を持つように努めている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>孤立はしていないが、行事や地域活動には参加するようにしている。</p>	<p>行事等に出かけて地域の方達と交流を持っている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	地域の高齢者や介護されている家族の暮らしに役 立つ取り組みが不足している。		グループホームとして地域の方、介護されている 家族の方々にどんな形で関わっていくのか職員間 で話しあっている。
3.理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では評価自体を厳しく考え、前向きに取 り組めるようにしている。外部評価の改善事項に ついては内部研修を行い改善に取り組んでいる。		更に研修等で改善に取り組んでいきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議では、各委員から色々な意見を頂い ています。		意見を反映しさらなるサービスの向上に繋げてい る。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	市町村担当者とは良好な関係である。		担当者には色々と助言をいただきサービス向上に 努める。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	関係制度にはもっと学ぶべきである。		内部研修等で学び制度を理解する。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	認識を常に持って支援する。		けしてあってはならない事を各自認識し支援して います。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入退居時には、十分話し合いを重ね納得いただいた上で決定している。</p>	<p>退去後の支援として、家族や関係機関と連携を保つ。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の利用者の意見や要望などは記録に残し、職員間で共有し、サービスに活かしている。</p>	<p>意見、要望を聞き入れ運営に反映させていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りを発行し利用者の生活の様子や、面会時・電話で健康状態の報告をしており、金銭管理については、面会時に小遣い帳の確認をいただいている。</p>	<p>受診時や状態に変化が診られた時は随時報告を行っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置したり、面会時や、電話等で家族と職員が気軽に相談できるよう努めています。</p>	<p>不満、苦情には即対応していく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見は利用者の声と捉え話し合いのうえとり入れている。</p>	<p>職員の意欲向上の為にいつでも話しやすい環境にしている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟に対応できるよう職員の調整を行っており、緊急時はユニット間の協力体制も整えている。</p>	<p>不測の時でも対応できる準備をする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動は最小限に抑え利用者に影響しないよう配慮している。</p>		<p>短期間での移動が無いように配慮していく。</p>
5.人材の育成と支援			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内では人材育成についての取り組みを行っており、ホーム内でも計画的に内部研修を職員全員が参加し実施している。</p>		<p>自らも常に向上心を持ち研修、業務に取り組む。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業者と交流を図りサービスの向上を目指す。</p>		<p>職員をはじめ利用者の方々も他事業所との交流を行っている。今後も交流機会を増やしていきたい。</p>
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩時間は取れている。</p>		<p>職員の休憩場所を確保し、ストレスを溜めないよう職員同士が気軽に悩みを話し合っていく。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務実績に応じて研修の受講や資格の取得を奨励し、各自が向上心を持てるよう支援している。</p>		<p>資格の取得、研修など、各自が意欲を持って取り組んでいく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>担当ケアマネジャーを交え事前面接を行い、本人の不安を解消できるように努めている。</p>	<p>安心して生活していただけるよう、丁寧な対応を心がける。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>担当ケアマネジャーを交えて家族の困りごとや悩み事について時間をかけて話し合いをしている。</p>	<p>家族だけでなく、本人に関わる全ての関係者に信頼いただけるよう努力する。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>緊急性があり当事業所ですぐに対応できない場合は他事業所を紹介したり、グループホーム以外のサービスであれば居宅介護支援を紹介しています。</p>	<p>本人や家族の要望、希望に添えられるように対応していきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に見学していただいたり、希望される方はショートステイを利用していただくときもあります。また、他利用者と馴染めるよう職員が橋渡し役になるときもある。</p>	<p>入所申し込みのある場合は本人や家族の方に見学を通して雰囲気を感じて頂きたい。</p>
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員が共に同じ時間を過ごし、支えあう関係を作る努力をしている。</p>	<p>利用者の方と接しているうちにその方の個性や力量を改めて知る事ができるため、色々なアプローチを心がける。</p>

扇寿苑グループホーム

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時の付き添い、行事、外出を通して職員と御家族と一緒に利用者の生活を支えています。		疎遠になりがちな家族へは事あるごとに電話等で連絡を入れるようにしています。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来られても状態がわかるよう、月に一度（受診報告時）は連絡を行い面会を支援している。		本人が「家族」を必要としている事を理解していただき、今以上の働きかけをしていく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり、電話で会話していただく等本人が納得できるような支援を行っている。		要望に沿えるよう外出支援体制を整えていく。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	互いが協力したり助け合える場面を作り、利用者同士がトラブルを起こさないよう見守り支援している。		一人ひとりを把握し、関係作り・支えあえる環境づくりに努める。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも相談に応じたり、出来る限りの支援に努めている。		契約終了後も出来る限りの支援を継続していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の気持ちを大切にしながら希望に沿ったケアを行っている。</p>	<p>コミュニケーションを取りながら一人ひとりの気持ちを理解・把握しケアに活かしていく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>バックグラウンドアセスメントを活用し一人ひとりの把握に努めサービスに活かしている。</p>	<p>場所が変わってもその人らしい生活を送れるよう、家族・本人の話しを基に今後のケアに役立てて行く。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>申し送り時に変化等気付いた事を職員全員に伝え、現状の把握に努めている。</p>	<p>状態の変化を見逃さないよう個々の把握に努め、出来ない部分をさりげなく支援するようにしていく。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・職員が希望・意見・気付きを出し合い話し合いながら介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の希望に沿えるよう、必要関係者と話し合いながら計画作りを行っている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態変化に伴い随時計画の見直しを行い、家族にも都度報告・相談しながら計画作成をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を活用し情報を共有する事で、ケアの実践・見直しに役立っている。		より良い支援が行えるよう、詳細な記録を心がけていく。
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来る限りの要望に沿えるようにしている。		要望に沿えるよう臨機応変に対応できるよう心がけていく。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	GHを理解していただけるよう、地域に対して少しずつ発信している。		資源を活用し利用者の行動の場を広げていけるよう支援に努めている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	敷地内の他事業所の理容師が気軽にサービスに応じてくれている。		地域ボランティアを上手く活用し、利用者の意向にできるだけ応じたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的な協働はしていない。		必要に応じて地域包括支援センターと協働できるよう努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った病院を受診しており、病状の変化等いつでも報告・相談できる関係作りに努めている。かかりつけ薬局へも相談等できている。		利用者・家族が納得できるよう・適切な治療が受けられるよう、より良い関係を築いていく。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医を受診する事をとまどう家族もいるが、職員が働きかけ家族の納得の上、専門医を受診できている。		専門医を受診する状況になった時は職員が家族の方へ不安のない説明を行い受診できるよう働きかけをしていく。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の配置はない。		利用者の状態を相談できる体制を整えていく。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に病院側に利用者の状況を伝えている。入院中の利用者の様子を情報交換し退院時も病院・家族から情報を得ている。		入院中の空きベットをショートステイとして利用して頂き、退院後の居場所は確保し、安心して治療して頂いている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意思に基づき医師に相談をし最良の方法を検討している。		今後必要に応じ研修等を行う。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所としての「できること・できないこと」は明確であり、家族の思いに答えられるよう医療機関、法人内の他事業者と相談しながら取り組んでいる。		今まで以上に「できること」の幅を広げて行きたい。状況に応じた対応を心がける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人にとって最良の場所を検討し十分に話し合い、次の居場所を決定している。		本人に関する細かな情報を提供できるよう準備していく。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーが他利用者に伝わる事のないよう常に配慮するよう心がけたり、記録の扱いにも気を配っている。		個人情報には特に慎重に取り扱っていく。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉で表出表現しにくい方でも思い思いに表現できるよう配慮している。		簡潔な表現でのコミュニケーションを取るようしていく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースは大切にしているが、利用者全員の希望には添えていない。		利用者の気持ちを大切にしていく。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみを大切に出来るよう配慮してる。		出かける事が困難な方には、他事業所の理容師が気軽に来てくれている。

扇寿苑グループホーム

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が食事の準備・片付け・食事も共にする。状況に応じ一人ひとり合った形で提供する。		季節感を感じられるメニューを提供していく。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師から制限の指示がある場合でも利用者の不満につながらないように楽しめるよう対応している。		一人ひとりの嗜好を把握し、その方に合った物を提供することで、満足に繋がるよう支援していく
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄表をつけ排泄パターンや排泄状況を職員が把握し声かけをし失敗を減らすよう配慮している。		プライバシーの保持に努めている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	拒否がある時などは、無理強いしない。体調の把握をし、気分良く入浴していただく。		入浴剤等を使用し、リラックスを図る。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人部屋になっており、自分だけの時間を持つ事が可能。		個人の睡眠パターンを大切にしている。安眠できる様に、日中の活動を支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブ・草取り・茶碗拭き・洗濯たたみ・季節毎の行事と積極的に支援している。		出来る事を見つけ、その人なりの自信やハリを見出すお手伝いをしている。

扇寿苑グループホーム

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	どうしても自分の手元に現金を持ちたいという方には、実際に所持していただいている。		買い物等で、自分でお金を払ったりお釣りをもらったり、見守りながら行って頂く。(可能な方の場合)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時間と、行事との兼ね合いで許す限りドライブ・日光浴・買い物等々楽しんでもらっている。		歌謡ショーや地域行事等にも積極的に参加して頂く。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出は自由にして頂いている。 なかなか家族が来れない方には、職員が対応している。		年に一度でも家族で出かける機会が持てるよう、家族にやんわりと働きかけていく。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話等、本人の希望があればいつでも対応している。		ホームでの生活状況をお伝えできるようなお便り等を御家族にお届けしています。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気兼ねなく話せるように、個人の居室で会って頂いている。 お茶やお菓子を提供し、楽しく過ごして頂いている。 面会時間の制限は設けていない。		気軽に来られるよう心がけている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけ、実践している。		身体拘束は必要ないものと認識している。

扇寿苑グループホーム

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	居室に鍵は付いていない。 玄関チャイムで無外のリスクを軽減している。		外出は本人の自由ではあるが事故防止の為、必ず職員が付き添っている。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士、声を掛け合い常に利用者の所在を把握している。		プライバシーやプライドに配慮した声掛け（トイレ時等）を行っていく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて、危険の無いように見守り、必要な時は職員が管理させて頂く。		家族の了解を得ながら、本人の状態の変化に応じた対応をしていく。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	薬やポリデント等は職員が管理する事としている。		事故防止の為の勉強会を開く。 利用者一人一人の状態を把握していく。 ひやりはっとの報告・活用で事故防止、再発防止に努める。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	応急手当等の実践研修を、定期的に行っていく。		消防署主催の救急救命講習の自発的参加を奨励していく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は地域の事業所と市のネットワークの連携で訓練を行っている。		個人用の大きい袋を準備する。 定期的な訓練をしている。

扇寿苑グループホーム


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人の状態の変化でおこりうる、リスクを家族に説明している。 居室の配置換え等、危険防止の為に必要時は家族の了解の下、行っている。		本人にも説明し、理解して頂くよう努めていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の体調管理に努め、些細な変化を見逃す事のないよう報告しあっている。必要な場合は主治医にも報告し指示を仰いでいる。		体調の早期発見に努め、不調が長引かないよう支援している。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを個人ごとに分かりやすくしている。追加や臨時に出た薬もリストに掲示し、誰が何を服用しているか把握に努めている。		薬をセットする時・服薬する前に必ずチェックできるように服薬表を活用し服薬を支援している。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便困難な方には特に気を配り支援している。また、排泄表をつけて確認している。		薬に頼らないように日常生活の中で運動をする等している。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後とはいかないが、声掛けによりうがいを行って頂いたり、就寝前には義歯洗浄剤を使用するなどの支援を行っている。		自力で歯磨き・うがい出来るよう支援に努めている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量、チェック表を使い水分量の把握をしDr. 指示による制限等の個々の状態に合わせて準備をしている。		水分量が少ない人もいるので、声掛けしたり本人の好みの物を準備している。

扇寿苑グループホーム

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルがある。定期的に確認しあい、職員自らが感染源とならないよう業務前の手洗いうがいをやっている。		面会者にも手洗いうがいを行って頂いている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の取り扱いは栄養士管理の下行われており、調理器具については毎晩消毒している。		食べ残しはその場で処分している。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にプランターを置き、季節の花を植えている。		建物周囲の掃除や草取りは利用者と職員とで行っている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は利用者同士がくつろぎやすいように椅子を置き季節の花や季節を感じ取れるものを飾ったりしている。		トイレに窓がない為、換気がいいとは言えないが快適に使えるようにこまめに掃除を行っている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれに気に入っている場所があり、自由に過ごしている。また、ひとりになれるスペースも確保している。		気の合う仲間同士が集える場所も確保できている

扇寿苑グループホーム

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への私物の持ち込みは自由であり、本人の希望にあった使い慣れたものを家族と相談して使用している。		居室の家具やベットの配置は本人の希望や状態に合わせて使いやすいように配慮している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房の調整はこまめに行っている。		利用者の希望にあわせて行っている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に支障がないような配置を工夫したり、身体機能を活かした安全に生活できる様に配慮している。		歩行を妨げるものを置かないようにしている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を未然に防ぐ努力をしているが、思いがけない事で混乱など見られる場合でもすぐ対応できる体制になっている。		一人ひとりの残存能力を活かしてできるだけ自立した生活ができるよう工夫している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭や敷地内を散歩したり、洗濯物を干したり、玄関先で外を眺めたり中庭でお茶会を開いたりしている。		畑など活用し、利用者と一緒に収穫を楽しんだりしている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さんがいつも元気で、めりはりのある楽しい日常生活を送って頂けるような支援を心がけています。

地域に出かける機会を増やし、たくさんの方とふれあい、交流を持ち、地域の一員としての生活を送って頂くよう

支援をしていきます。